ESBL 産生菌菌血症における AST 貢献への取り組み

◎高野 稜也[1)]、安藤 真帆[1)]、染谷 友紀[1)]、天野 ともみ[1)]、松井 奈津子[1)]、伊藤 英史[1)]、大嶋 剛史[1)]、藏前 仁[2)]
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床検査・病理技術科[1)]、医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 安全環境管理室[2)]

【背景】当院の抗菌薬適正使用支援チーム(以下 AST)は、病院稼働日午前 9 時に血液培養陽性症例を対象にカンファレンスを実施している。検査室として、夜勤帯のサブカルチャー実施、質量分析装置による直接菌名同定等により AST 活動に貢献している。2022 年 7 月より、早出業務を 2 名へと強化し、ESBL 産生菌についてシカベータテスト(関東化学)および FilmArray(ビオメリュー・ジャパン)による耐性因子確認検査を実施し、カンファレンスにて報告する運用を開始した。今回、これらの効果について報告する。

【対象・方法】2022 年 7 月から 2023 年 11 月の期間に、血液培養検査にて検出された腸内細菌目細菌 591 例中、シカベータテスト実施 227 例、FilmArray 実施 59 例の計 286 例を対象とした。対象より、ESBL 検出率とその内訳および抗菌薬適正使用支援について調査した。

【結果】対象における ESBL 検出率は 11.9%(34/286 例)であり、その内訳は *E.coli* 29 例、*K. pneumoniae*. 3 例、*P. mirabilis* 1 例、*Enterobacter* spp. 1 例であった。

また、AST により適正抗菌薬の継続または変更が推奨された症例について、継続症例ではシカベータテスト陰性が 143/195 例(73.3%)、陽性が 12/30 例(40.0%)であり、FilmArray 陰性が 38/52 例(73.1%)、陽性が 2/7 例(28.6%)であった。変更症例ではシカベータテスト陰性が 39/195 例(20.0%)、陽性が 18/30 例(60.0%)であり、FilmArray 陰性が 12/52 例(23.1%)、陽性が 4/7 例(57.1%)であった。

【考察・結語】今回の取り組みで、血液培養陽性症例においてコロニーが形成されているものはシカベータテストを実施し、それ以外は AST 判断のもと FilmArray を実施する業務フローを構築することができた。また、従来と比較して ESBL 産生の有無が迅速に AST で共有可能となり、抗菌薬の適正使用に寄与できることが示唆された。今後は夜勤業務の充実や迅速検査の強化等により感染対策チームの一員として貢献できるよう取り組みたい。

連絡先:0566-25-2951